

## 公園遊具に

## 家庭とくらし

## シール



公園などに置かれた遊具での事故を防ぐと、遊具メーカーなどの業界団体、日本公園施設業協会(東野)はこのほど、遊び方の注意点が一目でわかる子ども向けのシールを作成した。今後出荷する遊具に張るほか、自治体などから希望があれば会員企業が配布することとしている。

作成したシールは、プラスチックや滑り台、うんてい、ジャンケルジムなど十五種類の遊具を対象に作られた。それぞれ遊び方の注意点、対象年齢、遊ぶときの服装についての注意などに分かれ、百三種類ある。かわいいヒヨコの絵を使いながら、たとえば滑り台については「たったまま歩かない」「したからのぼらない」「ブランコでは」と

びおらない」「こいでいるそばで遊ぶはなない」など、子どもたちにわかりやすいような言葉と絵で遊び方の注意を記した。外国人の子どもにも分かるように、英語も併記してある。

遊具には金沢市内の公園で遊んでいた小学一年の男児がうんていの鉄製パイプに首を突っ込んで死んだという事故が全国各地で起きている。

### メーカー 事故予防意識育てる

団体作成

服装に関する注意では、園の都市公園の遊具で起き、三十日以上治療が必要な事故は一九九七―二〇〇二年で七十四件。昨年九月

昨年三月、国土交通省が高橋信行さんは説明する。同協会では、希望する加盟メーカーに卸し、これから出荷する遊具に張る。また、既存の遊具に関しても、全国の自治体や小学校、幼稚園(保育所)親たちからシールを張りたいという要望があれば、会員企業が配布して、事故予防の意識を広げることが期待している。

「シールには子どもたちが遊ぶときに觸れさを感じないような表現を心がけた。これで使い方を遊び方に原因での事故が減っていく」と同協会専務理事

さらに、子どもたちに直接呼びかけるために、シールと同様の内容を書いたパンフレットを年内に作成し、全国の公園などの管理部門、小学校や幼稚園などに配布するとも計画している。



子どもたちが遊ぶ公園の遊具。思わぬ事故が多発している



▲ 子どもに一目でわかる表示をしたシール